

静岡文化芸術大学 図書館・情報センターだより

新告知

Shizuoka University of Art and Culture Library News

2021.7 Vol.38

令和3年7月発行

発行所 静岡文化芸術大学 図書館・情報センター
〒430-8533 浜松市中区中央二丁目1番1号
TEL(053)457-6124 FAX(053)457-6125
<https://www.suac.ac.jp/library/>

Contents

■表紙

遠江風土歌 ————— ①

■図書館散歩

図書館のヤマアラシ ————— ②

国際文化学科 教授
高木 邦子

読書という逃避 ————— ③

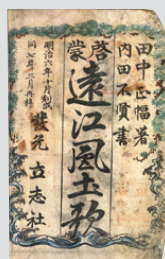
デザイン学科 教授
日比谷 憲彦

■知っていますか?こんなサービス

学生購入希望(リクエスト) ————— ④

■巻末

図書館ニュース ————— ⑤



遠江風土歌



官幣中社井伊谷宮圖

遠江風土歌：啓蒙 田中正幅[著]、内田不賢[書]

立志社 明治六年十月刻成、明治七年三月再梓 静岡文化芸術大学蔵
貴重書庫 [092.9/Ta 84]

明治4(1871)年11月、廃藩置県により遠江国を管轄する浜松県が発足しました。今回ご紹介するのは、浜松県下の小学校で用いられていた教科書です。

『遠江風土歌』は、浜松県の官員(大属)であった田中正幅が明治6(1873)年に著した浜松県の地誌で、当館で所蔵しているのは明治7(1874)年3月に再版されたものです。書名の由来は、浜松県の地理や歴史などを、ほとんど七五調で書き記してあるからだと考えられます。例えば、冒頭の郡名の記述では「郡ハ十二敷智濱名。豊田引佐に周智郡。麓玉磐田長の上。城東榛原佐野山名。」とあります。

『遠江風土歌』は、浜松県下の小学校の副読本として採用されました。くずし字で書かれていますが、文字は大きく振り仮名もあって、読みやすく構成されています。内容は遠江国の地勢から始まり、山河、駅や港、寺社、浜松県の組織、学区と学校、産物、租税、道德など多岐にわたっており、この1冊で当時の浜松県の様子がおおよそ理解できるようになっています。また、所々に彩色された挿図もあります。

明治9(1876)年8月21日には、ほぼ現在の県域の静岡県が成立したので、浜松県が存在したのは数年間でした。『遠江風土歌』は、当時の浜松県を偲ぶ、貴重な地域資料です。

参考文献：静岡県[編]『静岡県史 通史編5』[092.1/Sh 947/T-5]

浜松市[編]『浜松市史 3』[092.1/H24-2/3]

静岡県立教育研究所[編]『静岡県教育史 資料篇上巻』[093.7/Sh 94/3]

『遠江風土歌』(静岡県立中央図書館デジタルライブラリー)[2021年7月3日閲覧]

https://www.tosyokan.pref.shizuoka.jp/data/open/cnt/3/354/1/SZK0002703_20040929055820785.pdf



国際文化学科 教授
高木 邦子
Takagi Kuniko

本文の内容に関連する本

レバック[著]; 小此木啓吾[訳]
『山アラシのジレンマ:
人間的過疎をどう生きるか』
361.4/B 33

ショーペンハウアー[著]; 有田潤[訳]
『哲学小品集, 5』
(ショーペンハウアー全集; 14)
134.6/Sc 6/14

フロイト[著]; 須藤訓任, 藤野寛[訳]
『不気味なもの; 快原理の彼岸;
集団心理学: 1919-22年』
(フロイト全集; 17)
146.13/F 46/17

オープンアクセス論文の 学術情報としての位置づけを 確認するために

日本図書館情報学会研究委員会[編]
『学術情報流通と大学図書館』
(シリーズ-図書館情報学のフロンティア; No.7)
010/N 71/7

オンラインの情報を参照して 論文等を書くときの参考に

アメリカ心理学会(APA)[著];
前田樹海, 江藤裕之, 田中建彦[訳]
『APA論文作成マニュアル』
(第2版)
140.7/A 44

猪谷千香[著]
『その情報はどこから?:
ネット時代の情報選別力』
(ちくまプリマー新書, 320)
007.3/I 23

立岩陽一郎, 楊井人文[著]
『ファクトチェックとは何か』
(岩波ブックレット, No.982)
081/lb 1/982

図書館のヤマアラシ

皆さんは何をにしに図書館へ行きますか？私は…学生時代はもちろん本を借りましたし、調べ物にも行きました。ほかに、新聞を読みに行ったり、ビデオを観たり、自習室の代わりに、待ち合わせや時間つぶしに、疲れたときの逃避先に、暑い日に涼みに、図書館は大活躍でした。正直に言えば昼寝にも使いました（すみません）。

大学教員になった現在、図書館で過ごす機会は減りましたが、資料の原著や原典にあたれる、という本来の図書館の役割の重要性とありがたみを日々、感じています。授業で話すために古典的な文献の正確な記述を確認したり、読んだ論文で引用されていた文献を探したり。館内に無くとも複写依頼や借受依頼をすれば、古い本でも時には絶版でも、日本中の大学図書館や国会図書館などから借り受けて大抵は手に取ることができます。原著・原典ではどのように書かれていたのかを自分の目で確認することができるのです。

インターネットで簡単に発信できるようになったせいか、正確ではない情報に出会うことが増えました。違和感のある意味や文脈で心理学の言葉が使われていることは多々あります。あまり気になると、改めて原典を確認しに図書館へ行きます。

最近「ヤマアラシのジレンマ」という古い用語を調べました。

やまあらしの一群が、冷たい冬のある日、おたがいの体温で凍えることをふせぐために、ぴったりくっつきあった。だが、まもなくおたがいに刺(とげ)の痛いのが感じられて、また分かれた。(中略)ついにほどほどの間隔を置くことを工夫したのであって、これがいちばんうまくやっていけるようになったのである。(『ショーペンハウアー 哲学小品集, 5』より)

こんな寓話を哲学者のショーペンハウアーが書いています。それを精神分析家のフロイトが「他者と親しくなりすぎたくないが距離を置きすぎると寂しい」という対人関係の葛藤の説明に引用し、さらにこの葛藤をテーマにアメリカの精神分析医ベラックが*The Porcupine dilemma*（『山アラシのジレンマ』）という本を出版しました。

ところが。授業でこの概念を調べてもらおうと、ショーペンハウアーからの経緯を説明したうえで「ハリネズミのジレンマとも呼ぶ」と説明されることが続いたのです。出典を訊ねるとバツが悪そうに「ネットでそうした記述を多く見たから」とのこと（それ自体褒められることはありませんが）。ハリネズミ表記を知らなかった私は誤訳か新解釈・新概念の出現を疑い図書館を頼りました。

ベラックの本は原著が上述のとおり*The Porcupine dilemma*というタイトルで、Porcupineはヤマアラシ。ベラックが引用したフロイトのドイツ語の原著、さらにフロイトが引用したショーペンハウアーのドイツ語の原著にもあたり、続いてその英訳版と和訳版にもあたりました。その結果は…ドイツ語でも英語でも日本語でも、フロイトもショーペンハウアーも、すべて「ヤマアラシ」(英)Porcupine/(独) Stachelschwein)との表記でした。そして結局、図書館では「ハリネズミ」(英)Hedgehog/(独) Igel)のジレンマに関する文献は見つからなかったのです。

ところが、オープンアクセスの論文のなかに、この語をアニメの『新世紀エヴァンゲリオン』からの引用としているものが見つかりました。エヴァのエピソードのタイトルに、“Hedgehog’s Dilemma”（ハリネズミのジレンマ）という表現があると知り観てみると、何故か作中では登場人物は「ヤマアラシのジレンマ」と言っていました。これが誤訳なのか深い意味があるのかは私には謎のままですが、エヴァを観て混同してしまった方がいたのかもしれない。

エヴァのせいかそれ以外の理由か、現在ではショーペンハウアーやフロイト、ベラックらの名を出して「ハリネズミのジレンマ」と表記する文章がインターネット上にあふれています。誰もハリネズミとは書いてないのに！そのページの写真がヤマアラシでもハリネズミでもなくハリモグラだったこともあります。インターネットで得る情報の信憑性についてはここで触れるまでもありません。

残念なことに、某論文検索サービスでHedgehog(’s) Dilemmaを検索すると、「ショーペンハウアーが紹介したハリネズミのジレンマ」といった表現を含む「論文」が複数見つかります。新書の小見出しでも「ハリネズミのジレンマ」を目にしました（誰の言葉かは説明されていませんでしたが）。既に「ヤマアラシ」と「ハリネズミ」の混同は、これまで情報として信頼されてきた論文や本にまで広がっているのかもしれない。

私自身、専門とする領域ですべての概念や用語について原著にあたってきたわけではありません。ですがこの「ハリネズミとヤマアラシのジレンマ」は、少なくとも学問では（本当はそれ以外でも情報を発信する際には）原著や原典にあたる手間を惜しんではならないと強く感じた出来事でした。皆さんが発信者になる際にも、どうぞ気をつけて下さい。

余談ですが、ベラックの*The Porcupine dilemma* は1970年、フロイトの*Massenpsychologie und ich-Analyse*は1921年、ショーペンハウアーの*Parerga und Paralipomena*は1851年に出版された本ですが、図書館に依頼すると数週間以内にその全ての原著・原典にあたれます。しかも、借り受けたショーペンハウアーは新しい装丁でしたが、フロイトの原著は約100年前の初版本らしきものが送料610円で届きました。恐るべし大学図書館。



デザイン学科 教授
日比谷 憲彦
Hibiya Norihiko

文章中で紹介した書籍

村上春樹[著]
『風の歌を聴け』
913.6/Mu 431-1

村上春樹[著]
『1973年のピンボール』
913.6/Mu 431-2

村上春樹[著]
『羊をめぐる冒険』
913.6/Mu 431-3

金子達仁[著]
『28年目のハーフタイム』
783.47/Ka 53

杉山茂樹[著]
『3-4-3：
究極の攻撃サッカーを目指して』
783.47/Su 49

近藤史恵[著]
『サクリファイス』
913.6/Ko 73

佐藤多佳子[著]
『イチニツイテ』
(一瞬の風になれ, 1)
913.6/Sa 85/1

佐藤多佳子[著]
『ヨウイ』(一瞬の風になれ, 2)
913.6/Sa 85/2

佐藤多佳子[著]
『ドン』(一瞬の風になれ, 3)
913.6/Sa 85/3

中川理[著]
『偽装するニッポン：公共施設の
ディズニーランド化ゼーション』
526.3/N 32

慶応義塾大学佐藤雅彦研究室
中村至男作品[制作]
『任意の点P』
727.087/Ke 26

佐藤雅彦、齋藤達也[著]
『指を置く』
727.021/Sa 85

読書という逃避

若い頃、本を手にする動機は知的好奇心というような前向きなものではありませんでした。読書とは気分を変えるための有効な手段、もっと端的に言うならば眼前の状況から一時的に意識を逸らす逃避行動であったように思います。その影響で食指が動いた本のほとんどがフィクション（小説）やエンタメ指向の強いドキュメンタリーなどであり、こんなキツチュで消極的な読書歴の人間が図書館散歩に登場して良いものやらと我ながら疑問を感じつつも、今回は編集担当の方のお許しをいただきペンを取らせていただきました。

かつて雑誌『文藝春秋』に掲載される芥川賞作品とその選評を読むのを楽しみにしていた時期がありました。覚えているのは私が大学受験に失敗した年の選考評で、ある作家の賛否が大きく分かれていたことです。それが文芸誌『群像』で新人賞を受賞してノミネートされた村上春樹さんの『風の歌を聴け』でした。後日、極端な賛否への興味と佐々木マキさんのイラストの表紙に誘われて単行本を購入しました。鬱々とした浪人生活を送っていた私にとって、その小説の文体は水のように優しく心に染み込んできてとても感動した記憶があります。村上さんの小説には「不在」「喪失」「孤独」という生に関わる重いテーマと対峙しながらも、どこかペースのある暖かい眼差しを感じます。初期3部作の他の2作品『1973年のピンボール』『羊をめぐる冒険』もお薦めしておきます。

就職後のサラリーマン生活は多忙の一語でした。誤解を恐れずに言えばデザインはサービス業です。特に当時私が勤務していたようなフリーランスオフィスでは、理不尽とも思えるクライアントの要望に応えながらも締切を遵守しなければならず苛烈なストレスに晒されます。そんな日常のささやかな気分転換は余暇を見つけてのテレビスポーツ観戦でした。1990年に開催されたサッカーW杯イタリア大会以降、社内外のいたるところでサッカー談義なるものが交わされるようになり、読み物も『Number』誌をはじめとするスポーツ系のドキュメントを愛読するようになります。ここで同好の士を増やすべく関連の書籍を2冊紹介します。1つは金子達仁さんの『28年目のハーフタイム』、もう1つは杉山茂樹さんの『3-4-3』です。1996年のアトランタ五輪で28年ぶりに出場した日本代表は初戦でブラジルに勝つ「マイアミの奇跡」を起こし一躍脚光を浴びます。しかし続くナイジェリア戦のハーフタイムでチームは崩壊してしまいます。前者はこの内情を記したルポルタージュです。後者はサッカーを徹底的に戦術論から読み解いた解説書であり、3-4-3とはゴールキーパーを除いた10人の選手の配置形態の中で最も攻撃的とされるフォーメーションを指しています。勝敗には理由がありその大半は戦術に起因する、戦術に注目することでサッカーの娯楽性は一層高まるというのが著者の考えであり私も同意するところです。

私には大したスポーツ経験はありません。だからこそ常人が体験し得ないような状況下でのアスリートの心理や肉体的な修練の日々、成功へのカタルシスなどを想像するとワクワクします。それもフィクションであればなおさら無責任な（笑）イメージを掻き立てられます。その代表格を挙げるとすれば近藤史恵さんの『サクリファイス』と佐藤多佳子さんの『一瞬の風になれ』でしょうか。前者は自転車ロードレースの世界をテーマとした小説で、タイトル通りチームのエースを勝たせるために自己犠牲を厭わないこの競技の特殊性と選手心理を巧みに描きながら、極上の推理小説に仕立てています。後者は陸上短距離競技に青春を掛ける高校生たちを活写した群像劇です。100mを10秒台で走ることなど未知であるはずなのに追体験させられたような感覚描写は見事です。この確かな文章表現力で第28回吉川英治文学新人賞を受賞しています。

趣味嗜好を披瀝するのを少々自制して、専門領域であるクリエイティブ系の書籍で興味深いものも紹介します。中川理さんは著書『偽装するニッポン』の中で、ポストモダン以降に顕著になる奇異な公共施設や土木構造物の出現の背景を「ディズニーランド化ゼーション」という造語を軸に解析しています。この言葉はディズニーランドのような閉鎖的世界でのみ成立する表現様式が、日常空間を侵食し始めたことへの不気味さと危機感を象徴しています。私もパブリックデザインに関わり、自治体の意向や市民参加という美名の裏返しから安直な造形が提案される現場を体験した人間として首肯する点が多々ありました。ちょっと変わった1冊としては、慶応義塾大学佐藤雅彦研究室著『任意の点P』を挙げたいと思います。この本は読み物ではなく体験型の立体視図案集となっています。従来の立体視の方法とは異なり、ある規則に則った少しズレた2つの図像をそれぞれ左右の目に入射させる（表紙と一体化した特殊な眼鏡で見る）ことで脳が立体像を結ぶというものです。佐藤雅彦さんは広告業界出身の方ですが、独自の発想や手法で視覚表現から脳科学まで分野を超えたユニークな活動をされており、NHKのEテレ「ピタゴラスイッチ」の企画・監修も手がけられています。同氏のもう1つの著作『指を置く』と併せて推薦しておきます。

雑駁な文章を綴りながら自分の本棚を他人に見られるような気恥ずかしさを感じました。しかしながら偏狭な読書体験とはいえ、それは私にとって貴重で豊かな時間であったのだと今さらながら感慨深く再確認した次第です。

知っていますか？こんなサービス

学生購入希望（リクエスト）

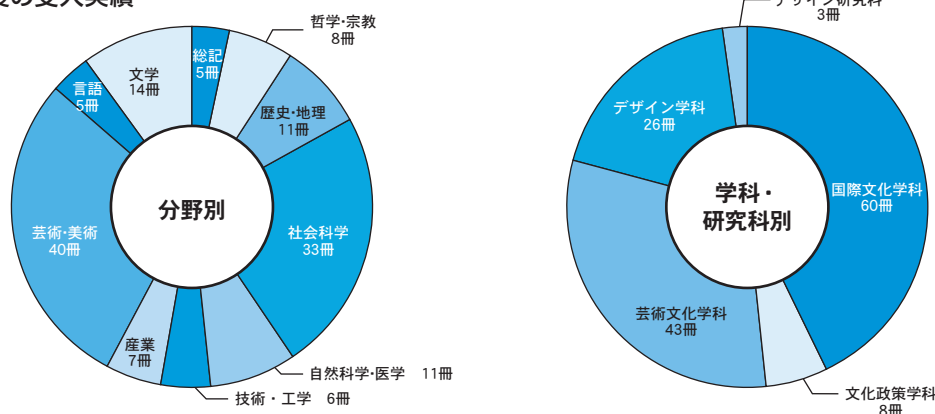
図書館・情報センターを利用して、「読みたい本があるけど所蔵されていない」「こんな本を置いてほしい」「卒業制作に必要な本があるけど、個人では高価で買えない」などといったことはありませんか？

そのような時は、学生購入希望（リクエスト）を活用してください。学生購入希望を申込するときは、カウンター前の掲示板にある「購入希望図書申込書（3枚綴）」に必要事項（図書の情報など）を記入して、カウンターに提出してください。

★学生購入希望（リクエスト）について

- ・学生購入希望は、本学の学生を対象とするサービスです。
- ・2020年度は6～7ページ掲載の140冊を受け入れました。
- ・絶版や品切となっている図書、洋書、CDやDVDなどの視聴覚資料も申込可能ですが、入手できないこともあります。
- ・雑誌・漫画類および1点が5万円以上の高額図書を除きます。
- ・学習や調査研究に無関係の個人的な利用目的は対象外です。
- ・一度に多数の購入希望を申し込むのはご遠慮ください。
- ・その他、学生購入希望で不明なことがありましたら、カウンターでご相談ください。

■2020年度の受入実績



学生購入希望（リクエスト）で購入した図書のご紹介

『配色デザイン良質見本帳：イメージで探せて、すぐに使えるアイデア集』

たじまちはる [著]
SBクリエイティブ, 2020.1
[757.3/Ta 26]



昨年度「色彩・形態論」という講義を受講しました。これをきっかけに、色の持つ役割や効果に興味を持ちました。どのような色合いが、どのような印象を人々に与えるのかを学ぶため、またそこから、より相手に伝わりやすいデザインにするためには、どのようなデザインが適切であるかを知るために、本書の購入申請をしました。

この本は、4章に分かれており、第1章では、彩度や明度、色相、トーンといった配色の基礎を押さえることができます。また、それを踏まえた配色テクニックについて学ぶことができます。第2章から第3章にかけては、直感的な配色と理論的な配色が実例をもとに解説されており、配色について理解を深めることができます。第4章では、配色に悩んだときに実践的に学ぶためのヒントが紹介されており、デザイナー視点からの配色を学ぶことができます。このように、基礎知識からプロのデザイナーの視点まで、幅広い内容を知ることができます。

本のタイトルに「良質見本帳」とあるように、グラフィックデザイン、Webデザイン、プロダクトデザイン、写真など合計300点以上もの見本が載っています。多数の実例が用いられているため、視覚的に、感覚的に配色について理解しやすいです。実際に見たことのある広告やポスターが例に出されているのですが、これらがなぜ、このような配色やデザインになったのかを具体的に学べるのが、本書の最大の魅力です。

また、色の機能的な役割や色の心理的な効果についても解説されています。これらを理解することで、自分のイメージしたデザインをより正確に、より具体的に表現し、また、より伝わりやすいデザインを制作することにつながると思います。

レジュメやパワーポイント、ポスターを作成するとき、良いアイデアが思いつかない、頭の中のイメージを上手く表現できない……、こんな風に悩んだことはありませんか。そんなときにこの本を手にとってみると、何かヒントを得られるかもしれません。

【文化政策学部 国際文化学科 3年 小川 莉奈】

『一度読んだら絶対に忘れない
世界史の教科書：公立高校教師
YouTuberが書いた』

山崎圭一〔著〕
SBクリエイティブ, 2018.8
[209/Y 43]



私は高校生の頃、世界史がとても苦手でした。膨大な数の人物名や出来事の名前を覚えたり、時代の流れをつかんだりするのに苦労していました。最後までよく理解しきることがないまま終わってしまったのですが、内容も難しく苦手意識を持っていたため、世界史はもう学ばないだろうと思っていました。しかし、大学に入ってから、中国やイタリアなど様々な国の文化や社会についての講義を受けているうちに、その国の文化や社会とその国の歴史は非常に深く関係していることに気づきました。文化や社会についての理解を深めるために、その国や地域の歴史についてもっと知りたいと思うようになり、本書を読んでみることにしました。

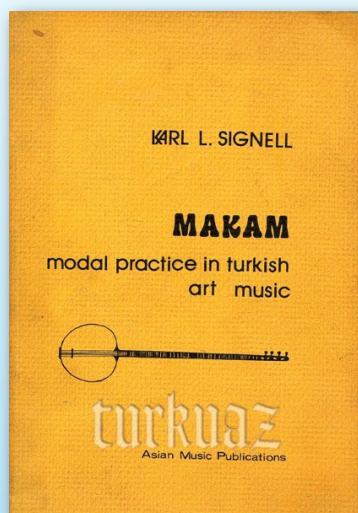
本書は、名前にもある通り教科書のように、いつの時代にどこでどのような出来事があり、どのような人が関与し、その結果どうなったかという世界の歴史が書かれています。人類や文明の誕生から、ヨーロッパ、中東、インド、中国の歴史、大航海時代や革命の時代、帝国主義と世界大戦の時代、そして現代の世界まで詳しい説明があり、世界史の大きな流れをつかむことができます。本書では、歴史がそれぞれの地域ごとにまとまって書かれているため、学ぶ地域や年代が目まぐるしく変わっていた高校の頃の教科書よりも、国や地域の歴史の全体像を捉えることが容易です。

高校生の頃教わったときに得た知識は、「点」のままで、なかなか結ばれていなかったのですが、本書を読んでやっと、その知識が「線」となって繋がっていく感覚がありました。年号が書かれていないので、物語を読むように読み進めながら、世界がこれまで歩んできた道のりを確認することができ、理解を深めることができました。高校の頃に挫折した世界史ですが、大学生のうちに本書を通して少しでも理解できたことが嬉しいです。これからも、世界史についても意識しながら、まだ知識の浅い国や地域の文化について理解を深めていきたいです。

【文化政策学部 国際文化学科 4年 天野 絵梨香】

“Makam : modal practice
in Turkish art music”

Karl L. Signell
Asian Music Publications, c1977
[762.274/Si 3]



この本の題名を訳すと『マカーム——トルコの芸術音楽における旋法の実践』となります。この聞きなれないマカームということばは、トルコの古典音楽（芸術音楽とほぼ同じ意味）の用語で、音階や旋法を意味します。また音階と旋法ということばは混同されやすいので、これらについても簡単に説明します。音階とは、ある曲で使用される音を下から、もしくは上から順番に並べたものです。一方で旋法とは音階を含む概念で、音階を構成するそれぞれの音の役割や、旋律の動きに関して述べたものです。したがって音階や旋法のあいだには次のような関係がなりたちます。

旋法 → 音階 + それぞれの音の役割 + 旋律の動き

しかしこれは最も理解しやすい考え方の1つで、旋法という概念をめぐる、これまでさまざまな論争が起こっていることは知っておく必要があります。

ところで、日本でもマカームの研究がないわけではありません。しかしそのほとんどは音階としてのマカームを説明するもので、旋法としてのマカームについてはあまり研究が進んでいません。余談ですが、トルコの古典音楽は1オクターヴを24に分割するので、使用される音階も膨大な数になります。そのため、音階をとりだすだけでもとても骨の折れる作業です。

この本はタイトルの通り、旋法としてのマカームについて説明したもので、わたしがこの本の購入を図書館に依頼した理由もそこにあります。しかし、この本を理解するためにはある程度、民族音楽学の勉強をしている必要があり、それらを同時に説明するにはスペースが足りません。しかし音階と旋法の違いについて少し理解したわたしたちにとって、次の著者のことばは印象的に響きます。

The mere scale of a makam is like a lifeless skelton. The life-giving force, the forward impetus of the melody is supplied by the seyir(progression).

マカームの音階だけでは、命をもたないが骨のようなものです。旋律に生き生きとした躍動を与えるのは、サイルとよばれる進行にこそあるのです。

あわせて読みたい本（本学の図書館にあります）

- 笠原潔・徳丸吉彦 『音楽理論の基礎』放送大学教育振興会、2007。
- 柘植元一 『世界音楽への招待——民族音楽学入門』音楽之友社、1991。

【文化政策学部 芸術文化学科 4年 中村 優希】

受入図書一覧

請求記号	資料名	著者名	出版者、出版年
002/L 76	世界の教養大全：頭のいい人のセンスが身につく	ロイド & ミッチンソン著 / 大浦千鶴子訳	マガジンハウス, 2020.12
007.3/Ma 11	Virtual, augmented reality and serious games for healthcare 1	edited by Minhua Ma, Lakhmi C. Jain, Paul Anderson	Springer, 2014
007.3/V 25/10	Virtual, augmented and mixed reality : applications in health, cultural heritage, and industry	Jessie Y.C. Chen, Gino Fragoneri (eds.)	Springer, c2018
019.9/Sa 25	中古典のすすめ	斎藤美奈子著	紀伊國屋書店, 2020.9
092.1/H 93/2-5	細江町史 資料編 5		細江町, 1985
104/A 99	新対話篇 (ゲンロン叢書・006)	東浩紀著	ゲンロン, 2020.4
134.96/Ko 45	原子力時代における哲学 (犀の教室)	國分功一郎著	晶文社, 2019.9
141.5/H 95	「具体→抽象」トレーニング：思考力が飛躍的にアップする 29 問	細谷功著	PHP 研究所, 2020.3
141.51/Ma 19	ポストトゥルース	リー・マッキンタイア著 / 居村匠, 大崎智史, 西橋卓也訳	人文書院, 2020.9
146.1/Ki 57/1	ものぐさ精神分析 改版 [正]	岸田秀著	中央公論社, 1996.1
146.1/Ki 57/2	ものぐさ精神分析 改版 続	岸田秀著	中央公論社, 1996.1
146.89/N 91	カウンセラーは何を見ているか (シリーズケアをひらく)	信田さよ子著	医学書院, 2014.5
162.3/D 44	ヨーロッパの世俗と宗教：近世から現代まで	伊達聖伸編著	勁草書房, 2020.10
209/Y 43	一度読んだら絶対に忘れない世界史の教科書：公立高校教師 YouTuber が書いた	山崎圭一著	SB クリエイティブ, 2018.8
210.3/Mi 76	古代の人々の心性と環境：異界・境界・現世	三宅和朗著	吉川弘文館, 2016.6
210.69/Ka 59	手記・関東大震災 (Shiriyoron selection:17)	関東大震災を記録する会編	新評論, 2002.12
215.1/Y 35/2-8	山梨県史 資料編 8	山梨県編	山梨県, 1998.6
215.1/Y 35/2-8	山梨県史 資料編 8(附図)	山梨県編	山梨県, 1998.6
222.5/F 68	満洲とは何だったのか	中見立夫 [ほか] 著	藤原書店, 2004.7
235/A 82	フランス文化 55 のキーワード (世界文化シリーズ・2)	朝比奈美知子, 横山安由美編著	ミネルヴァ書房, 2011.4
235/U 34	はじめて学ぶフランスの歴史と文化	上垣豊編著	ミネルヴァ書房, 2020.3
291.09/D 31	ダークツーリズム・ジャパン：産業遺産の光と影	ダークツーリズム・ジャパン編集部編	東邦出版, 2016.1
291.09/F 62	ほんとうのニッポンに出会う旅	藤本智士, Re:S 著	リトルモア, 2012.3
291.24/F 62	風と土の秋田：二十年後の日本を生きる豊かさのヒント	藤本智士著	リトルモア, 2017.8
302.162/Sa 12	アフリカ人学長、京都修行中	ウスビ・サコ著	文藝春秋, 2021.2
304/Ka 86	もうすぐやってくる尊皇攘夷思想のために	加藤典洋著	幻戯書房, 2017.10
309.021/Y 64	革命とサブカル：「あの時代」と「いま」をつなぐ議論の旅	安彦良和編著	言視舎, 2018.10
316.823/Sc 9	ソミア：脱国家の世界史	ジェームズ・C・スコット [著] / 池田一人 [ほか] 共訳	みすず書房, 2013.10
334.41/Mi 75	多文化共生の社会への条件：日本とヨーロッパ、移民政策を問いなおす	宮島喬著	東京大学出版会, 2021.2
334.41/Mu 72	ルポ新大久保：移民最前線都市を歩く	室橋裕和著	辰巳出版, 2020.9
335.15/Se 24	SDGs 経営の時代に求められる CSR とは何か	関正雄著	第一法規, 2018.11
335.21/A 73	創業家一族	有森隆著	インプレス (発売), 2020.2
336.2/Sa 81	直感と論理をつなぐ思考法：Vision driven	佐宗邦威著	ダイヤモンド社, 2019.3
336.5/H 76/2020-2	秘書検定試験 2 級実問題集：文部省認定 2020 年度版	実務技能検定協会編	早稲田教育出版, 2020
361.76/U 32	存続の岐路に立つむら：ダム・災害・限界集落の先に	植田今日子著	昭和堂, 2016.3
367.3/H 84	国家がなぜ家族に干渉するのか：法案・政策の背後にあるもの	本田由紀, 伊藤公雄編著	青弓社, 2017.9
367.3/Y 24	「家族の幸せ」の経済学：データ分析でわかった結婚、出産、子育ての真実	山口慎太郎著	光文社, 2019.7
367.4/L 49	アンシアン・レジーム期の結婚生活	フランソワ・ルブラン著 / 藤田苑子訳	慶應義塾大学出版会, 2001.5
367.5/O 81	これからの男の子どもたちへ：「男らしさ」から自由になるためのレッスン	太田啓子著	大月書店, 2020.8
367.9/Ka 39	LGBT とハラスメント (集英社新書:1027B)	神谷悠一, 松岡宗嗣著	集英社, 2020.7
368.2/I 51	ハウジングファースト：住まいからはじまる支援の可能性	稲葉剛, 小川芳範, 森川すいめい編	JRC (発売), 2018.4
368.3/Ma 81	「死にたい」に現場で向き合う：自殺予防の最前線	松本俊彦編	日本評論社, 2021.2
368.61/A 42	相模原事件：裁判傍聴記：「役に立ちたい」と「障害者ヘイト」のあいだ	雨宮処凛著	太田出版, 2020.7
369.16/Ts 84	福祉は誰のために：ソーシャルワークの未来図	鶴幸一郎 [ほか] 著	へるす出版, 2019.8
369.2/A 42	14 歳からわかる生活保護 (14 歳の世渡り術)	雨宮処凛著	河出書房新社, 2012.10
369.26/D 83	遊びリテラシー大全集：完全図解 (介護 Library)	土居新幸編著	講談社, 2017.7
371.42/A 42	学校、行かなくちゃいけないの？：これからの不登校ガイド (14 歳の世渡り術)	雨宮処凛著	河出書房新社, 2021.1
372.107/Ki 39	境界線の学校史：戦後日本の学校化社会の周縁と周辺	木村元編	東京大学出版会, 2020.11
383.1/W 42	ひとはなぜ服を着るのか	鷲田清一著	筑摩書房, 2012.10
383.1/Y 78	20 世紀からのファッション史：リバイバルとリスタイル	横田尚美著	原書房, 2012.6
383.15/Sh 11	チャイナドレスの文化史	謝黎著	青弓社, 2011.9
383.15/Sh 11	チャイナドレス大全：文化・歴史・思想	謝黎著	青弓社, 2020.6
383.8/Sh 34	現代都市と嗜好品	嗜好品文化研究会, TASC [たばこ総合研究センター]、CDI 著	ドメス出版, 2005.2
383.8/Ta 28	なぜ「ただの水」が売れるのか：嗜好品の文化論	高田公理著	PHP 研究所, 2004.1
383.885/A 79/3	酒の社会史 (シリーズ・酒の文化：第 3 巻)	アルコール健康医学協会編	アルコール健康医学協会, 1997.4
385.6/To 75	Rejoice when you die : the New Orleans jazz funerals	photographs by Leo Touchet/text by Verne Bagneris/introduction by Ellis L. Marsalis, Jr	Louisiana State University Press, c1998
386.156/W 46	近世城下町の付祭りの変化：伊賀国上野と下野国烏山を事例に	渡辺康代著	海青社, 2020.3
414/Mi 67	折り紙数理の広がり：抄訳 Origami6	三浦公亮 [ほか] 編 / 上原隆平ほか共訳	森北出版, 2018.11
414/U 36	計算折り紙入門：あたらしい計算幾何学の世界	上原隆平著	近代科学社, 2018.6
461.1/G 94	やってくる (シリーズケアをひらく)	郡司ベギオ幸夫著	医学書院, 2020.8
487.95/Ka 36	日本のアカウミガメの産卵と砂浜環境の現状	亀崎直樹, 通事祐子, 松沢慶利編	日本ウミガメ協議会, 2002.3
487.95/Ki 18	ウミガメは減っているか：その保護と未来	紀伊半島ウミガメ情報交換会, 日本ウミガメ協議会共編	紀伊半島ウミガメ情報交換会, 1994.6
490.21/Ku 59/1	呉秀三著作集 第 1 巻 医学史篇	岡田靖雄編・解説	思文閣出版, 1982
490.21/Ku 59/2	呉秀三著作集 第 2 巻 精神病学篇	岡田靖雄編・解説	思文閣出版, 1982
493.7/Sc 2	A handbook for the study of mental health : social contexts, theories, and systems 3rd ed	[edited by] Teresa L. Scheidt, Eric R. Wright	Cambridge University Press, 2017
493.76/A 98	発達障害当事者研究：ゆっくりしていねいになりたい (シリーズケアをひらく)	綾屋紗月, 熊谷晋一郎著	医学書院, 2008.9
498.3/H 87	血流がすべて解決する	堀江昭佳著	サンマーク出版, 2016.3
498.3/H 87	血流がすべて整う食べ方	堀江昭佳著	サンマーク出版, 2018.1
519.21/I 27	環境問題と被害者運動 (現代社会研究叢書)	飯島伸子著	学文社, 1984.10
519.21/Sh 49	近代日本の反公害運動史論 (現代の危機を考える :3)	清水みゆき著	日本経済評論社, 1995.4

請求記号	資料名	著者名	出版者、出版年
525.18 /I 84	Parametric design with Grasshopper: 建築 / プロダクトのための、Grasshopper クックブック 増補改訂版	石津優子, 堀川淳一郎著	ビー・エヌ・エヌ新社, 2018.10
548.3/Y 87	「孤独」は消せる。: 私が「分身ロボット」でかなえたいこと	吉藤健太郎著	サンマーク出版, 2017.3
548/H 44	VR 原論: 人とテクノロジーの新しいリアル	服部桂著	翔泳社, 2019.5
593.3/Mi 55	繕う暮らし: ダーニングで衣類をもっと素敵に	ミスミノリコ著	主婦と生活社, 2017.6
674.3/Se 17	西武のクリエイティブワーク: 感度いかが? ピッ。ピッ。→不思議、大好き。		リプロボート, 1982.4
674/A 25	ロゴをデザインするということ。成功と失敗から伝える、君へのアドバイス: ロゴデザイン・ラブ! 改訂第2版	David Airey 著 / 郷司陽子訳	ビー・エヌ・エヌ新社, 2016.11
675/Mi 67	シンプル族の反乱: モノを買わない消費者の登場	三浦展著	ベストセラーズ, 2009.7
689.21/O 42	コンテンツツーリズム研究: アニメ・マンガ・ゲームと観光・文化・社会 増補改訂版	岡本健編著	福村出版, 2019.4
689.81/O 67	温泉 150 (Magazine House mook)		マガジンハウス, 2019.1
689.81/P 97/2021	プロが選んだ日本のホテル・旅館 100 選 & 日本の小宿 2021 年度版		自由国民社 (発売), 2020.8
689.81/R 74/2021	今だからこそ温泉力を求め、旅に出よう		メディアバル, 2020.10
702.07/G 88	アート・パワー	ボリス・グロイス著 / 石田圭子 [ほか] 訳	現代企画室, 2017.1
702.1/Te 37/5	朝廷権威の復興と京都画壇: 江戸時代後期 (天皇の美術史 :5)	五十嵐公一, 武田庸二郎, 江口恒明著	吉川弘文館, 2017.4
706.7/To 46	美術箇の百年: 東京美術倶楽部百年史	東京美術倶楽部百年史編	東京美術倶楽部, 2006.2
712.53/Se 85	The Tilted arc controversy: dangerous precedent?	Harriet F. Serie	University of Minnesota Press, c2002
712.53/Se 85	Richard Serra: sculpture	Rosald E. Krauss/edited and with an introduction by Laura Rosenstock/essay by Douglas Crimp	Museum of Modern Art, c1986
721.8/E 24/4	北尾重政 (江戸艶本集成: 第 4 巻)	林美一著	河出書房新社, 2013.5
721.9/H 76	菱田春草総合年譜	下伊那教育会編	下伊那教育会, 1974
725/Ki 31	キム・ラッキの人体ドローイング	キムラッキ著 / ユンガンヒョン監修 / チャンジニ訳	オーム社, 2020.7
725/R 52	スコット・ロバートソンの How to render: アイデアを明確に伝える光と影、反射の描き方	スコット・ロバートソン, トマス・パートリング著 / B スプラウト訳	ボーンデジタル, 2015.7
726.5/H 64/2021	イラストレーション 2021	平泉康児編	翔泳社, 2020.12
726.5/V 82/2021	VISIONS: ILLUSTRATORS BOOK 2021	pixiv 監修	KADOKAWA, 2020.11
726.507/Mu 73	アニメ私塾流最速でなんでも描けるようになるキャラ作画の技術	室井康雄著	エクスナレッジ, 2017.11
726.507/N 93	とことん解説! キャラクターの「塗り」入門教室: CLIP STUDIO PAINT PRO で学ぶ描画の基本テクニック	乃樹坂くしお著	SB クリエイティブ, 2020.1
748/Ko 71	Eat	今道子写真	小学館, 1991.5
757.3/Ta 26	配色デザイン良質見本帳: イメージで探せて、すぐに使えるアイデア集	たじまちはる著	SB クリエイティブ, 2020.1
761.3/C 87	音楽のリズム構造: 新訳	G.W. クーパー, L.B. マイヤー共著 / 徳丸吉彦, 北川純子共訳	音楽之友社, 2001.2
762.274/F 18	Music of the Ottoman court: makam, composition and the early Ottoman instrumental repertoire	Walter Feldman	VWB, Verlag für Wissenschaft und Bildung, c1996
762.274/Si 3	Makam: modal practice in Turkish art music	Karl L. Signell	Asian Music Publications, c1977
762.3/L 96	Le concours du prix de Rome de musique (1803-1968)	ouvrage coordonné par Julia Lu et Alexandre Dratwiczki/preface de Eric de Chassey	Symétrie/Palazzetto Bru Zane, 2011
766.1/C 53	オペラの 20 世紀: 夢のまた夢へ	平凡社, 2015.10	平凡社, 2015.10
767.8/G 69	Gospel A to Z		TOKYO FM 出版, 2003.12
767.8/N 15	歌う大衆と関東大震災: 「船頭小唄」「籠の鳥」はなぜ流行したのか	永嶺重敏著	青弓社, 2019.10
767.8/Sh 78	ゴスペルの本 新版	塩谷達也著	ヤマハミュージックメディア, 2010.4
767.8/U 55	J ポップの心象風景	烏賀陽弘道著	文藝春秋, 2005.3
770.1/R 76	演劇について: グランパールへの手紙	ルソノ著 / 今野一雄訳	岩波書店, 1979.10
770.4/F 74	福田恒存せりふと動き: 役者と観客のために	福田恒存著	玉川大学出版部, 1979.11
771/A 96	Production management (Application & techniques series)	Joe Aveline	Entertainment Technology, 2002
771/G 45	The production manager's toolkit: successful production management in theatre and the performing arts	Cary Gillet, Jay Sheehan	Routledge/Taylor & Francis Group, 2016
771/Se 11	So you want to be a theatre producer?	James Seabright	Nick Hern, 2010
771/Ts 81	ベストと劇場	津野海太郎著	晶文社, 1980.6
772.1/N 81	日本演劇思想史講義	西堂行人著	論創社, 2020.4
775.1/A 87/1	私の築地小劇場 [正]	浅野時一郎著	秀英出版, 1970.9
775.1/A 87/2	私の築地小劇場 続	浅野時一郎著	秀英出版, 1981.9
777.8/F 66	藤城清治影絵の世界: シルエット・アート作品とその技法	藤城清治著	東京書籍, 1983.3
777.8/F 66	藤城清治影絵劇の世界: シルエット・ブレイその歴史と創造	藤城清治著	東京書籍, 1986.11
778.2/O 38	映画とキリスト	岡田温司 [著]	みすず書房, 2017.8
778.2/Sh 62/116	フェリーニの宇宙 (シネアルバム :116)	根岸邦明, 柳沢一博責任編集	芳賀書店, 1985.9
778.77/F 67	アニメと戦争	藤津亮太著	日本評論社, 2021.2
778/G 48	シネマ頭脳: 映画を「自分のことば」で語るための	ロバート・グラッツァー著 / 吉田俊太郎訳	フィルムアート社, 2002.12
798/E 61	ゲームメカニクス大全: ボードゲームに学ぶ「おもしろさ」の仕掛け	Geoffrey Engelstein, Isaac Shalev 著 / 小野卓也訳	翔泳社, 2020.10
801.03/P 25	The language of persuasion in politics: an introduction 1st ed	Alan Partington and Charlotte Taylor	Routledge, 2018
801/Ta 94	ことばは生きている: 選択体系機能言語学序説	龍城正明編	くろしお出版, 2006.5
807/N 81	第二言語教育におけるバフチンの視点: 第二言語教育学の基盤として	西口光一著	くろしお出版, 2013.10
810.1/Sa 13	コミュニケーションと言語におけるキャラ	定延利之著	三省堂, 2020.6
814.7/H 38	現代日本語における外来語の量的推移に関する研究	橋本和佳著	ひつじ書房, 2010.2
901.27/Y 97/5	神話の法則: ライターズ・ジャーニー (夢を語る技術シリーズ :5)	クリストファー・ボグラウ著 / 舘元美香翻訳	愛育社 (発売), 2002.11
912.6/Ki 16/1	阿部定之次 (喜劇昭和の世界 :1)	佐藤信著	晶文社, 1976.3
912.6/Ki 16/2	キネマと怪人 (喜劇昭和の世界 :2)	佐藤信著	晶文社, 1976.11
912.6/Ki 16/3	プランキ殺し上海の春 (喜劇昭和の世界 :3)	佐藤信著	晶文社, 1979.9
912.6/Sa 85	夜と夜の夜	佐藤信著	晶文社, 1981.11
913.6/Ki 54	日没	桐野夏生著	岩波書店, 2020.9
913.6/R 32	星月夜	李琴峰著	集英社, 2020.7
913.6/To 83/1	小説やらいか: 豊田佐吉傳 上	北路透著	致知出版社, 2019.9
913.6/To 83/2	小説やらいか: 豊田佐吉傳 下	北路透著	致知出版社, 2019.9
923.7/L 73	三体	劉慈欣著 / 大森望, 光吉さくら, ワン・チャイ訳	早川書房, 2019.7
923.7/L 73/2-1	黑暗森林 上 (三体 :2)	劉慈欣著 / 大森望, 立原透耶, 上原かおり, 泊功訳	早川書房, 2020.6
923.7/L 73/2-2	黑暗森林 下 (三体 :2)	劉慈欣著 / 大森望, 立原透耶, 上原かおり, 泊功訳	早川書房, 2020.6
931/Ka 89	The moon and her stars	Rupi B. Kaur	Andrews McFeels Publishing, c2019
992.3/G 35	ブリタニア列王史: アーサー王ロマンズ原撰の書	ジェフリー・オヴ・モンマス著 / 瀬谷幸男訳	南雲堂フェニックス, 2007.9

(計 140冊)

映画資料展『Moving Text -映画資料を読む-』を開催しました

2013年3月、静岡文化芸術大学は、静活株式会社から映画関係資料をご恵贈いただきました。その内容は、映画雑誌53タイトル約3,500冊、映画パンフレット約1,400冊、脚本277冊、図書約50冊、合計約5,000冊におよぶものでした。2021年3月から4月にかけて、この資料を中心に、地域の映画関係資料を広く展示した展覧会『Moving Text -映画資料を読む-』を開催しました。

開催にあたり、貴重な資料をご貸与くださった関係機関の皆様をはじめ、さまざまなご助力をいただきました方々に、心より御礼申し上げます。

展覧会概要

本展では「地域と映画文化」「映画パンフレットの世界」「制作の舞台裏」という3つのキーワードを挙げ、約120点の資料を選定し、映画監督木下恵介や映画編集技術者浦岡敬一の制作台本、1930年代の静岡地区上映館プログラム、時代の象徴となった映画パンフレットなど、様々な媒体の原資料を公開しました。

また、展覧会会期中の3月25日には、土肥悦子氏（シネモンド代表 / 一般社団法人こども映画教室代表理事）をお迎えして、展覧会会場前のスペースで「ミニシアターでの経験と子ども映画教室の活動」と題したトークイベントを行いました。

本展は、本学が所蔵する映画資料を用いた初めての展覧会でした。また、「テキストだけの展覧会」というアイデアを実現した会場の空間設計では、展覧会什器と展示計画において、大きさの異なるストूलを制作し配置することで、展示の新たな手法を試みました。

展覧会には地域の方々をはじめ、全国から映画関係のアーキビストや研究者、制作関係者にご来場いただいたほか、本学学生も数多く参加しました。

これら一連の映画資料と展覧会活動をきっかけとして、映像産業振興機構（VIPO）が「アーカイブ中核拠点形成モデル事業」に於いて作成している冊子『全国映画資料館録2020』に、本学図書館・情報センターが掲載されました。

会期：2021年3月4日～4月6日

会場：静岡文化芸術大学 ギャラリー

主催：静岡文化芸術大学 文化・芸術研究センター

協力：静活株式会社

静岡県立中央図書館

木下恵介記念館（浜松市旧浜松銀行協会）

[指定管理者：浜松創造都市協議会・東海ビル管理グループ]

特定非営利活動法人トータルケアセンター「浦岡敬一のシゴト部屋」

什器設計：LAP

制作協力：ファブラボ浜松テイクスペース

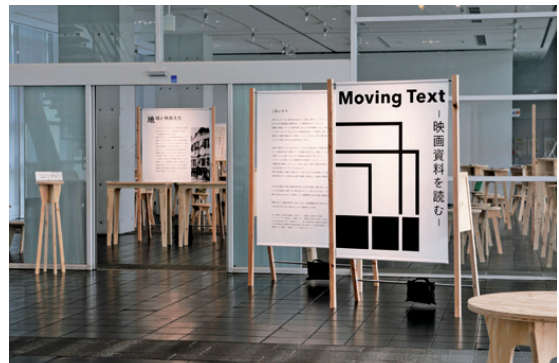
企画・運営総括：池田 泰教、加藤 裕治、的場 ひろし

空間設計：高部 亘、根木 隆之、池田 泰教

グラフィックデザイン：博多 哲也

資料選定：土屋 麻子、井出 直樹

※本展は、令和2年度静岡文化芸術大学イベント・シンポジウム等開催費に採択された事業です。



会場全景



展示空間



展示（地域と映画文化）



土肥悦子氏のトークイベント